



特別展

中谷 Miyuki ミユキ展 語り合う 静物

三岸節子とともに

2025年

5.31|土|→7.27|日|

【開館時間】11:00~17:00 (入館は16:30まで)

【休館日】月曜日 (祝日7月21日は開館)

【入館料】一般 500円、学生 250円、中学生以下無料

【主催】公益財団法人泉美術館、一宮市三岸節子記念美術館、中国新聞社

【後援】広島県教育委員会、広島市、広島市教育委員会、中国放送、広島テレビ、

広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅービー76.6MHz

公益財団法人

泉美術館

〒733-0833

広島市西区商工センター2-3-1 エクセル本店5階

TEL:082-276-2600 FAX:082-276-2612

<https://www.izumi-museum.jp/>

図版:《果物と水差し》1971年 油彩/キャンバス 個人蔵



《静物》1930年 油彩／キャンパス 広島市立飯室小学校蔵



《あじさいと少女》1948年 油彩／キャンパス 安佐北区民文化センター蔵

会期内イベント

○当館学芸員によるギャラリートーク

〔日時〕 6月14日(土)、7月5日(土)

各回14:00～

※展覧会チケットが必要です



アクセス

●JR山陽本線「新井口」駅より徒歩約15分 ●広電宮島線「草津南」駅より徒歩約10分 ●駐車場無料(エクセル本店駐車場をご利用ください)

公益財団法人

泉美術館

〒733-0833
広島市西区商工センター 2-3-1 エクセル本店5階
TEL: 082-276-2600 FAX: 082-276-2612
<https://www.izumi-museum.jp/>



中谷ミユキ(1900-1977)は、広島県安佐郡飯室村(現・広島市安佐北区安佐町)に生まれました。

共立女子専門学校(現・共立女子大学)に進学、卒業後は郷里に戻って教職に就きましたが、病気をきっかけに退職、1930(昭和5)年、30歳になってから洋画の道に進みます。その年の第11回帝展に《静物》を出品、初入選を果たしました。以降、帝展・新文展・光風会に出品を重ね、実力を認められていきます。戦時中には、長谷川春子(1895-1967)らとともに女流美術家奉公隊に加わりしました。戦後は1947年に三岸節子(1905-1999)らとともに女流画家協会を創設し、中心的な存在として同会を牽引し続けました。また二紀会・十一会でも活躍し、きらめくような色彩の静物画を生み出していました。



中谷ミユキ肖像

本展では、複数の個人宅で保管されてきた初期から晩年までの静物画を中心に、稀少な戦中の作品《勝利の少年兵》(1944年 個人蔵)のほか、三岸節子の作品、遠縁である丸木位里の作品や現在の飯室とミユキの繋がりも合わせてご紹介いたします。戦前から戦後の揺れ動く時代を画家として生き、病を得ながらも絵筆を握り続け、静物画を描くことに情熱を燃やした中谷ミユキの没後初の本格的な回顧展です。



《花と果実》1969年 油彩／キャンパス 広島県立美術館蔵



《花》1973年 油彩／キャンパス 個人蔵



《花》1957年 油彩／キャンパス 広島市市民局生涯学習課蔵



《太海》1977年 油彩／キャンパス 個人蔵

三岸節子作品



《白い花(ヴェロニにて)》1989年 油彩／キャンパス
一宮市三岸節子記念美術館蔵



《花》1960年代 油彩／キャンパス
三之瀬御本陣芸術文化館蔵

©MIGISHI

©MIGISHI